



会長就任のご挨拶

駒澤会 10 代会長

山田直重



令和8年5月16日に開催されました駒澤大学駒澤会総会におきまして、駒澤会の会長に就任する大役を仰せつかりました。駒澤会に入会してから16年が過ぎました。自身の仕事の方では定年退職を迎えました。発足から55年となる伝統ある駒澤会の会長就任ですから責任の重さを痛感いたしております。

駒澤会は、昭和46年3月駒澤大学卒業式後の父兄会（現教育後援会）メンバーの会合でその後の相互の親睦の維持と、奨学金制度をもって在校生への支援を実施することにより駒澤大学発展に寄与できると「七一会」を結成したことから始まります。その年10月に、さらに多くの関係者に呼びかけられ「七一会」を改め「駒澤会」が誕生しました。そこから奨学金制度確立を期して関係各位が基金整備に尽力され、昭和57年駒澤大学開校100周年となる年より在校生へ奨学金給付が実施されました。そこから今日に至るまでに累計で1200名を超える学生への奨学金給付が継続しております。駒澤会設立ならびに基金整備に尽力された方々に深く感謝申し上げます。また会員皆さまのご支援に感謝申し上げます。

駒澤大学建学の理念に「行学一如」があり「仏教の教えと禅の精神」などの言葉があります。これらの言葉はここに集う皆さまに浸透し、社会に対して力を発揮されております。仏教の教えにある「智慧と慈悲」や「縁起」などは、これぞ駒澤会ではないでしょうか。自身を振り返っても会員の皆さまと交流を重ねることで他では得られないものを頂いていると実感しております。

私はこの伝統ある駒澤会がこれからも発展し続けるよう努力を重ねる所存です。この先を見据えると、駒澤会継続のため乗り越えなければならない課題がありますが、在校生支援の継続は意義深く大切なことであると信じております。駒澤大学発展のために、また駒澤会発展のために今後もご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。最後に皆さまのご健勝とご発展を祈念いたします。

多くの「縁」に支えられ、未来へ紡ぐ駒澤の精神

駒澤大学 学長 村松哲文

駒澤会の皆様、平素より本学の教育・研究活動に対し、多大なるご理解と温かいご協力、そして力強いご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

私が学長に就任いたしまして、早いもので1年が過ぎました。まさに「若葉マーク」を付けたような手探りの状態から始まった、激動の1年間でした。このような重責を担いながら、なんとか無事に今日まで職務を全うしてこられたのは、偏に私の周りで支えてくれた、優秀な教職員の皆さんのおかげに他なりません。日々の業務における迅速かつ的確なサポート、そして大学をより良くしようという熱意溢れる姿勢に、私は日々助けられ、また深く感銘を受けてまいりました。これほどまでに頼もしく素晴らしいスタッフたちが揃っている駒澤大学ですから、その未来は決して揺らぐことなく、安泰であると確信しております。

この1年間に駆け抜ける中で、私の手元にはすでに700枚を超える名刺が集まっております。驚くべきことに、そのうちの500枚ほどが、本学と直接的な関係のない方々のものです。これほどまでに多くの方々が駒澤大学に関心を寄せ、期待をかけてくださっている事実、日々深い感謝と、身の引き締まるような責任を感じております。

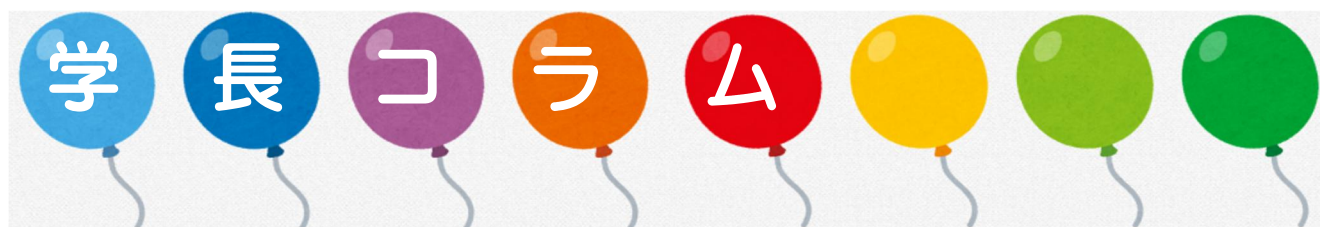
駒澤大学は、禅の心、すなわち仏教の精神を建学の理念として創建された大学です。仏教では、人と人のつながりである「縁」を大切にすることを説くと同時に、私たちは決して孤立して生きているのではなく、無数の「縁」によって生かされているのだという真理を教えています。

この700枚の名刺、そして何より駒澤会をはじめとする皆様とのつながりこそが、まさに本学が生かされている「有り難い縁」そのものです。優秀なスタッフとの縁、そして社会の皆様との縁に生かされているからこそ、私たちは前を向いて進むことができます。



しかしながら、目を外に転じれば、大学を取り巻く環境はかつてないほどの厳しさを増しています。18歳人口の激減には未だ歯止めがかからず、政府からも「大学を4割減らす」という非常に厳しい方針が打ち出される時代を迎えました。高等教育機関の淘汰が現実味を帯びる中、本学もまた、この大荒波を乗り越えていかなければなりません。

この未曾有の危機に立ち向かうため、私は、学内だけにとどまらず、駒澤会をはじめとする保護者の皆様、卒業生、そして地域社会の皆様という、本学を愛し支えてくださる「大勢の力」を結集させることが不可欠であると考えております。皆様との尊い縁を原動力に変え、この荒波を乗り越え、学生たちが安心して学び、社会へ力強く羽ばたいていける豊かな学び舎であり続けられるよう、私自身、これまで以上に先頭に立って尽力してまいります決意でございます。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻、そして変わらぬ本学への愛情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



観音様の優しさ

村松哲文

観音様は、日本人にとって最もなじみ深い仏像の一つです。観音様と聞くと、多くの人が「優しい」「慈悲深い」というイメージを思い浮かべるでしょう。それは観音菩薩が、仏教における「慈悲」の心を象徴する存在だからです。人々の苦しみや悩みの声に耳を傾け、それを救おうとする姿が古くから信仰されてきました。

観音様の魅力は単に優しい仏様というだけではありません。実は観音様には、とても興味深い特徴があります。それは『観音経』に説かれる「三十三身」という考え方です。観音様は人々を救うために、三十三もの姿に変化するとされています。なぜ観音様は姿を変えるのでしょうか。その理由は、観音様は自分の姿にこだわるのではなく、相手に応じて最も受け入れられやすい姿で救済を行うからです。

この考え方は現代にも通じるものがあります。私たちが困難に直面したとき、助けてくれる人は必ずしも聖人のような姿をしているわけではありません。家族であったり、友人であったり、あるいは偶然出会った人であったりします。観音様は、そのような「救いの手」がどのような形で現れるか分からないことを教えてくれているようにも思えます。

さらに興味深いのは、観音様の変化した姿の中には、穏やかな表情ばかりではないということです。その代表が馬頭観音です。馬頭観音は頭上に馬の頭をいただき、険しい表情をした憤怒相で表されます。一見すると慈悲深い観音様とは結びつかないように見えますが、これもまた観音様の救済の姿なのです。なぜ怒った表情なのでしょう。それは、人を救う方法が必ずしも優しく寄り添うことだけではないからです。時には厳しく戒め、迷いや執着を断ち切らせることも必要だからです。子どもを思う親が時に厳しく叱るように、観音様もまた相手に応じてさまざまな表情を見せるのです。慈悲とは単なる優しさではなく、相手を本当に救うための働きそのものだといえるでしょう。

日本の仏教美術を見渡すと、仏像の中で最も多様な姿に展開したのが観音像です。聖観音、千手観音、十一面観音、如意輪観音、馬頭観音など、その種類は実に豊富です。それだけ観音様が人々の願いに寄り添い、身近な救済者として信仰されてきた証でもあります。

誰かが親身になってあなたを助けてくれたとき、その人はもしかすると観音様が姿を変えて現れた存在なのかもしれません。観音像には、そんな想像をかき立てる面白さと、人々を温かく見守る深い慈悲の世界が秘められているのです。

新役員のお知らせ

役員任期：令和8年5月～令和10年5月



会長
山田 直重



副会長
市川 よし子



副会長
堀 純一郎



副会長
齋藤 和子



監査
赤堀 菊絵



監査
木村 朋子



顧問
森屋 正治



顧問
一戸 隆男



総務部長
桐畑 秀司



総務部副部長
軽部 雅美



総務部副部長
堀内 和代



広報部長
山本 久美子



広報部副部長
石川 美乃利



広報部副部長
古橋 明尊



厚生部長
山口 正和



厚生部副部長
吉田 稔



厚生部副部長
石井 晋一

◎ 相談役：三崎 章子・久野 文代

参与のご紹介

駒澤大学教育後援会との連携強化を図るため、教育後援会会長並びに副会長お一人に参与を委嘱し、ご協力いただいております。



教育後援会 会長
福島 誠



教育後援会 副会長
成田 亜由美

駒澤会新年賀詞交歓会



総務部副部長 軽部 雅美

令和 8 年 2 月 11 日の祝日の水曜日、アルカディア市ヶ谷私学会館の 5 階「穂高」で賀詞交歓会が開催され、33 名が参加しました。

会は総務部の桐畑部長の司会で進められ、初めに一戸会長が「去年は 40 名の学生に奨学金を渡すことができました。駒澤会は創立 55 周年になり、これまで累計 1200 名を超える学生に手を差し伸べることができました」と報告し、「私は、令和 2 年に会長職を拝命し、3 期 6 年を務めました。これまで、皆さんと共に歩んでこられたことは、かけがえのない時間でした」と語りました。



《駒澤大学永井総長》

駒澤会名誉会長である駒澤大学永井総長の挨拶のあと、駒澤会名誉副会長の村松駒澤大学学長がマイクを持ち、「4 月から学長になりました。今年の入試は、応募数が 2 万人弱に増えました。駒澤大学を第一志望に選んでもらえるよう、務めて努めてまいります」と述べました。

続いて駒澤大学教育後援会井垣会長と駒澤大学同窓会大石会長が挨拶をし、森屋顧問の乾杯で、食事と歓談に入りました。

教育後援会からの出席者の紹介、駒澤会厚生部・広報部・総務部、そして執行部のメンバー紹介がありました。永井総長と赤堀監査は、同じ 79 歳と言うことですが、お二方とも元気で、実年齢よりずっとお若く見えました。

また教育後援会千年副会長は、受験の応募者が 2 万人を超えたという村松学長の報告を受けて、「駒澤に春が来たー！」と発声し、会は大いに盛り上がりました。



初めての会場での開催でしたが、料理は美味しくボリュームもあり、イベント抽選会では、10 名の方に QUO カードが当り、2 時間がとても短く感じられた楽しいひと時でした。

令和 8 年度 駒澤会総会開催報告

総務部委員 吉久 由起

初夏の陽気の中、緑が眩しい 5 月 16 日（土）午前 11 時より駒澤会総会が、深沢キャンパス 2-1 講義室で、32 名が出席して（事務局除く）開催されました。司会進行は桐畑秀司総務部長でした。

冒頭、令和 2 年度から 6 年間の長きに渡り駒澤会の発展と親睦にご尽力賜りました一戸隆男会長より退任の挨拶があり、「本日 5 月 16 日は松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅へと出発した「旅立ちの日」にあたります」と述べて、駒澤会の今後を山田直重新会長に託しました。続いて、駒澤会名誉副会長でもある村松哲文学長が挨拶し、議事に移りました。

【審議事項】

1. 令和 7 年度各部活動報告及び令和 8 年度各部活動報告の件
2. 令和 7 年度決算及び基金管理状況報告の件
3. 会計監査報告の件
4. 令和 8 年度予算の件
5. 駒澤会会則及び各種規程改正の件
6. 役員改選の件
7. その他

【報告事項】

1. 駒澤会参与委嘱の件
2. 令和 8 年度年間行事予定表
3. 駒澤会入会者数・奨学金について



上記審議事項は満場一致で承認されました。報告事項では、駒澤会新参与の教育後援会の福島誠様と成田亜由美様から、今年度（8 年度）新たに教育後援会静岡支部が設立されるという嬉しい情報がありました。

最後に、山田直重新会長が「様々課題があると思うが、駒澤会継続のために今後も皆さまのご協力をもって乗り越えていきたい」との就任の決意を述べました。

庭園での写真撮影後、1 階の「洋館小ホール」で 34 名が参加して（事務局除く）懇親会を開催しました。教育後援会からも 6 名の役員に参加していただき感謝申し上げます。

この中で村松哲文学長からは、令和 10 年 4 月に**グローバル・メディア・スタディーズ学部**に新学科が設置される予定という、ホットでうれしい発表がありました。「**駒澤会は、卒業された父兄が学校を応援するという珍しくも力強い団体で、その視線と熱意は学生だけでなく教職員にも十分伝わっている。有難く大切にさせてもらいたい**」という言葉ももらい、出席者一同大きな励みとなったことは言うまでもありません。

森屋正治顧問の乾杯の発声で宴席がスタート。ブッフェ形式の和洋中とバラエティ豊かなお料理とお酒を頂きつつ、終始笑顔あふれ和やかな時のなかで、会員同士の親睦もいっそう深まったようです。

新体制になる駒澤会執行部役員の挨拶、各部（広報・厚生・総務）委員の紹介を経て、赤堀菊絵監査が約 2 時間の懇親会を盛会のうちに締めました。

懇親会の後も、深沢キャンパスにほど近い「中華居酒屋・寧ママ」に場を移して二次会が開かれて多数の参加がありました。名残り惜しむように語りあう姿が印象的で、改めて駒澤会の絆を感じる一日となりましたことをご報告いたします。

今後も親睦会や研修会も計画されていて、様々な活動と親睦の機会がございます。会員の皆様のふるってのご参加をお待ち申し上げます。



《総会終了後 深沢キャンパス庭園にて》

令和 8 年度初夏の親睦会に参加して

西寺 みどり

6月20日（土）に行われた駒澤会「初夏の親睦会」に夫と二人で参加しました。駒澤会の行事への参加は2010年以来、なんと16年ぶりでした。遠方であることと、仕事がまだ現役ということもあり、不参加が続いていました

当日の朝、私は、以前の参加から16年も経っているので、前回にお世話になった役員の方々は、すでに役を退かれて、知っている方はおられないだろうと思いながら集合場所の鶴見駅に向かいました。ところが、そんな心配は全くいらない集まりでした。会う人ごとに遠くから参加したことへの賛辞やねぎらいの言葉をかけていただき、すぐに打ち解けて、仲間の一人になりました。

總持寺は、広大な敷地の中に巨木が立ち並び、静寂さの中に巨大な建造物が建っていて、屋根も高くて大きくて圧倒されました。日本一大きいという石の三門もくぐりました。

初めに「三松閣」という建物の中で、お坊様から總持寺の成り立ちなどを含めた法話を聞きました。そのお坊様はドイツ出身の「ゲッペルト昭元老師」でした。今の配役は、国際室長兼参禅室長で「60代と思われるでしょうけど、まだ40代です」と言われました。老師は、3年前に外国人にも禅を広めるために、この本山に呼ばれたそうです。それまでは、石川県輪島市にある「大本山總持寺祖院」で12年間修行されていたそうです。

石川県の總持寺の創建は1321年で明治時代に火事で焼失し、それがキッカケで今の神奈川県鶴見市に移転したそうです。その後、もともと總持寺のあった石川県輪島市にも總持寺が再建されて、そちらを大本山總持寺「祖院」と呼んでいると教えていただきました。



法話の後、坐禅堂に移動して、楽しみにしていた35分間の坐禅体験をしました。堂内は静寂が保たれ、その中で外の雨の音やかすかに聞こえる太鼓の音を聞きながら「壁と向かい合った」35分間、貴重な体験でした。

第2部の懇親会の場所は、JR 関内駅近くの天ぷら懷石「天吉」でした。天吉さんのお料理は、どれもとびきり美味しくて、お酒もおしゃべりもよくすすみました。天吉の5代目当主・原茂男様はサザンオールスターズの原由子さんのお兄様です。駒澤会厚生部の石井副部長と学校の先輩・後輩というよしみで焼酎の差し入れなどをしていただきました。宴の最後には、挨拶に来て下さり、和やかな会にさらに花を添えていただきました。懇親会は、美味しくて和やかで気持ちが温くなるアツと言う間の2時間でした。

参加された人たちは年齢も職業も住む所も違う皆さんです。ただ一つ共通なのは、子どもが駒澤大学を卒業したという点だけです。子どもが卒業した駒澤大学に感謝して、駒澤大学の発展を応援したい、何よりも学生さんたちが駒澤での学生生活を楽しみ、深く学び、豊かな人生を送って欲しいと願っている人たちなのです。なんという嬉しい集まりではありませんか。私たち夫婦も心置きなく楽しませていただきました。

最後になりましたが、企画・準備・そして当日の進行をして下さった役員の皆さま本当にありがとうございました。



- 令和 8 年度駒澤会奨学金受給学生決定のご報告 -

今年も「駒澤会奨学金」の学内募集が行われ、昨年を大きく上回る 182 名からの応募がありました。大学の奨学金委員会により、慎重かつ厳格な審査を行い、37 名の学生の採択を決定いたしました事をご報告いたします。近年の物価高騰の影響などにより、学生の生活もひっ迫しており、応募者数を見ても、本奨学金の存在は大変大きいものとなっております。貴重なご支援を賜り感謝申し上げます。

令和 8 年 7 月 14 日（火）に奨学金授与式を執り行い、駒澤会役員・村松学長ご出席の元、受給が決定した学生全員に、会員の皆様の思いをお伝えいたしました。授与式当日の様子や受給学生のインタビューなどは今後報告する予定です。引き続きのご支援、何卒よろしくお願いいたします。

- 基金管理委員会からのお知らせ -

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせいたします。

運用先	令和 7 年 12 月～令和 8 年 6 月までの利金	備考
野村証券	294,339 円	三菱 UFJ・ソフトバンク社債
みずほ銀行	146 円	普通預金利息
世田谷信用金庫	70,673 円	定期預金利息
合 計	365,158 円	

基金管理委員会 委員長

- 新規入会者 -

ご入会ありがとうございます。令和 8 年 4 月 1 日から令和 8 年 7 月 9 日までに入会いただいた方の紹介です。入会時に名前の公表の可否が不明だった方は匿名とさせていただきました。ご了承ください。

大石 まゆみ様	谷本 哲也 様	小島 一夫 様	川面 公太郎様
横尾 顕一 様	目黒 和博 様	荒木 めぐみ様	佐藤 和広 様
須藤 清美 様	山本 康剛 様	松川 昌章 様	笹島 智貴 様
和田 幸人 様			

他匿名 28 名

★-☆-★-☆-★-☆ 駒 澤 会 新 規 会 員 募 集 中 ★-☆-★-☆-★-☆

駒澤会では新規会員を随時募集しております。ご友人、お仲間に駒澤大学出身のお子さまがいる方はいらっしゃいませんか？

縁のある駒澤大学を応援しつつ、様々な行事を通して楽しく交流しましょう。

- 各部入部のお誘い -

一緒に活動しませんか？

駒澤会会員の皆さまに、駒澤会の運営に携わる各部への入部をお誘いしています。

会の運営は、以下の3つの部に分かれて活動しています。2～3ヶ月に1度ほどのペースで会議を行っています。

ぜひ一緒に、駒澤会の活動を盛り上げましょう！入部をお待ちしております。

希望される場合は、駒澤会事務局までご連絡ください。

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。

部長
桐畑秀司



厚生部

会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。

部長
山口正和



広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。

部長
山本久美子



- 行事予定のお知らせ -

【大学】

8/1～9/15	夏季休業期間
9/16～	後期授業開始
10/15	第144回開校記念日
10/31	ホームカミングデー
10/31～11/1	オータムフェスティバル

【駒澤会】

8/28	教育後援会との懇親会
10/24	役員会

「駒澤会だより」は、
今年度から年1回の発行と
なります。



今やバラエティーに CMにと引っ張りだこの「りくりゅうペア」。ショートプログラムでの痛恨のミスで涙が止まらなかった木原選手、そこからの大逆転で日本中が盛り上がったことは記憶に新しいところです。私もオリンピックのフリープログラムの日は早朝からテレビにかじりついての応援でしたが、「りくりゅう」の完璧な「グラディエーター」の演技を観たときは感動で涙が溢れて止まりませんでした。七年という月日に積み上げられた二人の信頼は一回のミスなど帳消しに出来るくらい強かったのだと教えてくれました。

日頃よりフィギュアスケートを観ることが好きな私ですが、アイスショーに足を運ぶことは滅多にありませんでした。しかし生で演技を観るなら今しかない「スターズオンアイス」というアイスショーのチケットをゲットしようと思い立ちました。先行抽選にも二度挑戦しましたがはずれ、発売日当日は一瞬で売り切れ、でも諦めきれず午後もう一度予約サイトを開くと何と大阪公演で追加の席が販売されているのを発見し、迷わず購入を決めました。

当日の出演者は海外選手も含むオリンピックメダリストたち、今でなければ集められない旬な人ばかり。オリンピックさながらの演出も楽しく、また試合の緊張感とは違う和やかな雰囲気、ライバルというより戦友のような感じもして、夢見心地で過ごした時間はあっという間に過ぎていきました。

会場は遠かったけど、念願の「グラディエーター」も観ることができ、他にも応援していた坂本花織選手、佐藤駿選手の演技も堪能できました。

思い残すことがないようにやりたいことは今やる。ここでも諦めない気持ちは大事でした。「りくりゅう」いい思い出をありがとう。

駒澤会副会長 齋藤和子



【駒澤会ホームページのご案内】

駒澤会

検索

スマートフォンはこちらからアクセス →



駒澤大学
駒澤会

駒澤会だより 第44号

発行日：令和8年7月30日

〒154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

発行者：駒澤大学駒澤会広報部

TEL：03-3418-9189 / Mail：komazawakai@komazawa-u.ac.jp